

PC技能者能力評価基準

令和2年3月25日認定

建設技能者の能力評価制度に関する告示（平成31年国土交通省告示第460号）及び建設技能者の能力評価制度に関するガイドライン（平成31年3月29日）に基づき、PC技能者の能力評価基準（以下「本基準」という。）を以下のとおり定める。

1. 能力評価基準の策定主体

一般社団法人 プレストレスト・コンクリート工事業協会

2. 能力評価基準を策定する目的

建設キャリアアップシステムに登録・蓄積される情報を活用して、PC技能者の技能について客観的な評価を行うことにより、

- ①評価結果を活用して、取引先や顧客に対して技能水準を対外的にPRすることを通じて、価格交渉力の強化を図り、技能に見合った評価や処遇を実現する
- ②キャリアアップに必要な経験や技能を明らかにすることで、PC技能者のキャリアパスを明確化し、若年層の入職拡大・定着促進を図る
- ③PC技能者を雇用する専門工事企業の評価（「専門工事企業の施工能力等の見える化」と連動させることにより、高い技能を有するPC技能者を育て、雇用する企業が選ばれる環境を整備し、人材育成と処遇改善の好循環を生み出すことを目的とする。

3. 能力評価基準の対象とする職種

本基準は、PC工事（PC構造物の施工）に従事する技能者を対象とする。

具体的には、建設キャリアアップシステムにおける技能職種の

- ・大分類「その他」（52）小分類「PC工」（34）
- ・大分類「普通作業員」（02）小分類「普通作業員」（01）
- ・大分類「橋りょう世話役」（24）小分類「橋りょう世話役」（01）
- ・大分類「土木一般世話役」（25）小分類「土木一般世話役」（01）

とする。

なお、下記の技能職種については、PC工事に従事する場合に限り能力評価基準の対象とする。

- ・大分類「特殊作業員」（01）小分類「土工」（11）
- ・大分類「とび工」（06）小分類「とび工」（01）
- ・大分類「鉄筋工」（10）小分類「鉄筋工」（01）
- ・大分類「橋りょう特殊工」（22）小分類「橋りょう特殊工」（01）
- ・大分類「型わく工」（33）小分類「型わく工」（01）

- ・大分類「左官」(35) 小分類「左官工」(01)
- 本基準に基づき能力評価を受けた技能者を、「PC技能者」と称する。

4. 能力評価の段階

能力評価はレベル1からレベル4までの4段階とし、各レベルにおける技能者像は以下のとおりとする。

レベル1：初級技能者（見習いの技能者）

PC施工の基礎的な知識があり、機械・工具等の安全な使い方を知り、上司の指示を受けて、手順に基づき作業を行うことができる。

レベル2：中堅技能者（一人前の技能者）

分担された作業を工程や工事の流れに沿って、上司の確認を得て、正確に作業を行うことができる。

レベル3：職長として現場に従事できる技能者

工程、品質、安全管理等の知識により作業手順を組立て、他の技能者に対して的確な作業の指示を行うことができる。

レベル4：高度なマネジメント能力を有する技能者（登録基幹技能者等）

高度な技術を有し、工程や工法等を元請事業者と協議・調整し、元請の管理者を補佐し、総括的な作業の指示や各種管理を的確に行うことができる。

5. 各レベルの基準設定

各レベルの基準は、建設キャリアアップシステムに蓄積・登録される就業日数、保有資格、職長・班長としての就業日数を用いて設定する。

就業日数及び職長・班長としての就業日数は、建設キャリアアップシステムにおける技能職種のうち

- ・大分類「その他」小分類「PC工」
- ・大分類「普通作業員」小分類「普通作業員」
- ・大分類「橋りょう世話役」小分類「橋りょう世話役」
- ・大分類「土木一般世話役」小分類「土木一般世話役」

に従事した就業日数を評価する。

※なお、下記の技能職種については、PC工事に従事する場合に限り対象とする。

- ・大分類「特殊作業員」小分類「土工」
- ・大分類「とび工」小分類「とび工」
- ・大分類「鉄筋工」小分類「鉄筋工」
- ・大分類「橋りょう特殊工」小分類「橋りょう特殊工」
- ・大分類「型わく工」小分類「型わく工」
- ・大分類「左官」小分類「左官工」

また、建設技能者の能力評価制度に関するガイドラインに基づき、建設キャリアア

ップシステムに蓄積された215日の就業日数を1年と換算して扱うものとする。

保有資格については、建設キャリアアップシステムにおいて、その保有等について確認できるものに限る。

各レベルの基準は、以下のとおりとする。

(1) レベル4の基準

【考え方】

就業日数、保有資格、職長・班長としての就業日数については、登録PC基幹技能者講習の受講要件を踏まえ設定する。

【基準】

①から③までを満たしていること。

①就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が2,150日(10年)以上であること。

②保有資格

ア) 及びイ) までを満たしていること。

ア) 以下に掲げる資格のいずれかを保有している又は表彰を受けていること。

- ・登録PC基幹技能者(講習修了証の期限が切れている場合は除く)
- ・優秀施工者国土交通大臣顕彰

イ) (2)の②及び(3)の②に定める資格(レベル3及びレベル2の基準となっている資格)を保有していること。

③職長・班長としての就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された職長としての就業日数が645日(3年)以上であること。

(2) レベル3の基準

【考え方】

就業日数、保有資格、職長・班長としての就業日数については、職長として現場に従事できる技能者であることを踏まえ設定する。

【基準】

①から③までを満たしていること。

①就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が1,505日(7年)以上であること。

②保有資格

ア) 及びイ) を満たしていること。

ア) 職長・安全衛生責任者教育(職長教育を含む)に加え、以下に掲げる資格の

いずれかを保有していること。

- ・ 1級又は2級土木施工管理技士
- ・ 1級又は2級建築施工管理技士
- ・ コンクリート橋架設等作業主任者技能講習
- ・ 足場の組立て等作業主任者技能講習
- ・ 型枠支保工の組立て等作業主任者技能講習

イ) (3) の②に定める資格(レベル2の基準となっている資格)を保有していること。

③職長・班長としての就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された職長または班長としての就業日数の合計が215日(1年)以上であること。

(3) レベル2の基準

【考え方】

就業日数、保有資格、職長・班長としての就業日数については、中堅技能者として現場に従事できる技能者であることを踏まえ設定する。

【基準】

①及び②を満たしていること。

①就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が645日(3年)以上であること。

②保有資格

以下に掲げる資格をいずれも保有していること。

- ・ 玉掛け技能講習
- ・ 足場の組立等の業務に係る特別教育

(4) レベル1の基準

【基準】

建設キャリアアップシステムに技能者登録をされ、かつ、レベル2から4までの判定を受けていない技能者とする。

各レベルの基準の内容については、別表に一覧として示す。

6. システム利用開始前の経験の評価

5. の規定にかかわらず、就業日数及び職長・班長としての就業日数については、当面の間、建設キャリアアップシステムに蓄積された情報に加えて、所属事業者等による経歴証明により証明された日数も活用する。

具体的な活用方法については、PC技能者能力評価実施規程に定めるところによる。

7. その他

PC技能者能力評価実施規程に定める評価実施の開始時期よりも前に、一般財団法人建設業振興基金に対して技能者登録の申請を行った者であって、登録PC基幹技能者の資格を有しているために一般財団法人建設業振興基金からゴールドのキャリアアップカードを交付された者については、レベル4の基準を満たしているものとして取り扱う。

【別表】レベル1～4の基準の一覧

	就業日数	保有資格	職長・班長としての就業日数
レベル4	就業日数が2,150日（10年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> ●登録PC基幹技能者 ●優秀施工者国土交通大臣顕彰 ・レベル2、レベル3の基準に示す保有資格 	職長としての就業日数が645日（3年）以上であること。
レベル3	就業日数が1,505日（7年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> ●1級又は2級土木施工管理技士 ●1級又は2級建築施工管理技士 ●コンクリート橋架設等作業主任者技能講習 ●足場の組立て等作業主任者技能講習 ●型枠支保工の組立て等作業主任者技能講習 ・職長・安全衛生責任者教育 ・レベル2の基準に示す保有資格 	職長又は班長としての就業日数の合計が215日（1年）以上であること。
レベル2	就業日数が645日（3年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> ・玉掛け技能講習 ・足場の組立等の業務に係る特別教育 	/
レベル1	建設キャリアアップシステムに技能者登録をされ、かつ、レベル2から4までの判定を受けていない技能者		

※ ●印の保有資格については、いずれかの保有で可